

第268回郵政民営化委員会後 委員長記者会見録

日時：令和5年11月20日（月）18:30～18:41

方法：Web会議

○司会 6時半になりましたので、ただいまから郵政民営化委員会山内委員長によります記者会見を行います。

本日も、ウェブ形式での会見とさせていただきます。

恐縮でございますが、御発言されないときには、マイクをミュートにさせていただきますよう、御協力をお願いいたします。

会見の進め方ですが、冒頭に山内委員長に御発言いただき、その後、質疑応答とさせていただきます。

それでは、山内委員長、よろしくをお願いいたします。

○山内委員長 郵政民営化委員会委員長の山内でございます。どうぞよろしくをお願いいたします。

郵政民営化委員会の本日の概要について、御説明申し上げたいと思います。

資料は、お配りしていると思います。

本日は、日本郵政グループから、日本郵政グループの2024年3月期第2四半期決算等について、ヒアリングを行ったところであります。

議事の内容については、配付資料を御確認いただければと思います。

この内容について、質疑がございましたが、それについて簡単に紹介させていただきます。

一つ御意見が出たのは、土曜の配達等をやめたわけですが、それによって、郵便の配達に時間がかかるというイメージが持たれているのではないかとということで、例えばそういうことに対して、速達をブランディング化するというので、もう少しこれをアピールしたらどうかという御意見が出されました。

日本郵便側からの答えなのですが、2024年問題がある中でも、速達のサービス水準をしっかりと維持していきたいと思っているということ。

速達の魅力をアピールすることも必要と考えていると。

郵便局の位置づけの中で、速達の魅力向上をどう図っていくのか、社内でも議論しながら進めていきたいという御回答をいただきました。

もう一つ、郵便ポストの話なのですが、ある委員から出た意見ですが、郵便ポストは一つの財産であると。これをいかに使っていくことが重要だということであります。

例えばポストの入り口を大きくして、さらに使い勝手のいいものにするとか、これによって小さな物流をしっかりと受け止められるのではないかと、取り込めるのではないかとという御意見であります。

これに対して、日本郵便から、ゆうパケットポストは売上げが伸びてきていると。それから、郵便ポストがある点が、物流業界の中で強みとなっていると認識していると。現在、投入口の大きなポストを実証的に設置する等、投函の利便性向上に取り組んでいるところである。実証も含めて、その辺を検討してまいりたいというお答えをいただいたところであります。

議事の内容は、以下のとおりであります。

本日の議題の説明は以上となりますが、もう一つ、11月1日に、千葉県鴨川市の江見駅の郵便局を視察することができました。

そして、鴨川市と意見交換をいたしました。

これについて、簡単に申し上げますと、江見駅郵便局は、全国で初めて駅と郵便局が一体的に運営されている郵便局であります。郵便局と他の民間企業が連携している事例として視察したということであります。

鴨川市役所は、市の行政事務を郵便局に委託していること、また、江見駅郵便局が所在する郵便局であることから、地域の事情を期するために、いろいろな意見交換も行ったところであります。

私からの説明は以上でございます。

何か質問がありましたら、どうぞお願いいたします。

○司会 それでは、質問をお受けいたします。

御質問がある方は御発声、または挙手ボタンでお知らせください。

御質問がある方。

郵湧新報の園田さん、お願いします。

○記者 お世話になります。

郵湧新報の園田です。

今回の決算の結果を受けて、3年ごとの見直しの意見に、どのように反映されていかれるなどのお考えみたいなものはありますでしょうか。

これからのビジネスモデルの在り方をどのように転換されていくべきとか、現状のまま、こういう部分を使うべきとか、何かお感じになられたことがあったら、お話してください。

○山内委員長 ありがとうございます。

今回の決算は、2024年3月期の第2四半期ということで、ある一時点のものでありますので、これから3年検証云々、もちろん、全然関係ないわけではありませんが、もう少し広い、長期的な視点で検証していくのかなと思っています。

ただ、今回の決算で、日本郵便の問題は一つ指摘できるわけで、恐らく、3年検証ということになると、これから日本郵便をどう立て直すのかということが中心になると思いますが、そういった意味での示唆があったかと思っています。

以上です。

○記者 ありがとうございます。

○司会 通信文化新報の永見さん。

マイクが入っていないかもしれないです。

○記者 ミュートを外してなくて、ごめんなさい。

江見駅を視察されたということなのですが、市役所からどのような御要望や現状の意見とかがございましたでしょうか。

○山内委員長 江見駅郵便局については、もちろん、鉄道、JRさんと日本郵便のコラボということで、非常によい印象を受けたと伺っています。

もう一つは、市役所でのヒアリングの中で、非常に特徴的だったのですが、鴨川という市が、これまでいろいろな町村の合併でできてきたということで、その中で、もともとあった町村の核というか、コア的なところに郵便局があって、そういった郵便局の在り方をまちづくりにも生かしているというお話を伺いました。

江見駅自体は、コラボという意味でも非常によいことですが、それ以上に印象的だったのは、今申し上げたように、まちづくりの面でも郵便局が役立っているという鴨川市さんの意見だったと思います。

○記者 郵便局側から何か課題とか、問題点といった御指摘はなかったでしょうか。

○山内委員長 そもそも江見の郵便局は、もともと駅のそんなに遠くないところにあったのです。ですから、移っていても、それほど利用者に対する不便はないと、一方で、逆に、これは駅ですから、人の流れの中心ですから、そういった面でのメリットがあるということだと思えます。

あるとすれば、鉄道に関する例えば切符の販売とか、その他の情報の提供といったことについての業務が増えるわけですが、それについては、それほど郵便局の運営自体に差し障りのあるほどのものではないと伺いました。

逆に、鉄道側から見ると、もともとその駅は無人駅だったわけです。そこに郵便局ができて、郵便局の方に今申し上げたような切符の販売とか情報の提供を一部負担していたということで、鉄道側のサービスも上がるわけでありますので、非常にいい事例だと思っております。

○記者 ありがとうございます。すみません。ここは無人駅ではなくて、市の委託で人はいたと思うのですが。

○山内委員長 いずれにしても、JRさんとしては、無人駅にするところだったわけです。

○記者 そうですね。請け負わなければ無人駅になったということですね。

○山内委員長 そういうことです。

○記者 ありがとうございます。

○司会 ほかに御質問がある方はいらっしゃいますでしょうか。よろしいでしょうか。

NHKの谷川さん、お願いします。

○記者 NHKの谷川と申します。

聞こえておりますでしょうか。

○山内委員長 はい。大丈夫です。

○記者 今日は、議論が決算だったと思うのですが、郵便切手などの値上げの話は、議論としては出ていないのでしょうか。

○山内委員長 この決算の中では出ていません。

○記者 決算ではないところでは、今日、何かしら議論はされましたか。

○山内委員長 一般的に、そういう方針があるという話は聞いておりますが、まだ具体的に動いていると思っておりますので、詳細については全く存じ上げておりません。

○記者 承知しました。

ありがとうございました。

○司会 ほかによろしいでしょうか。

ないようですので、これで山内委員長の会見を終わらせていただきたいと思います。

山内委員長、記者の皆様、どうもありがとうございました。

○山内委員長 どうもありがとうございました。

以上